

第二部 各論
第一編 政治問題

目次

第二部 各 論

第一編 政治問題

第一章 概 説

一、「ヘンダーソン」ノ歐洲主要關係國歴訪	六五
二、英外相ノ聲明、獨逸ノ會議脫退	六五
三、獨逸脫退ノ善後措置	六六
四、主要關係國間ノ外交々々	六七
五、精神軍縮案	六八

第二章 監督委員會

一、監督委員會ノ構成	六八
二、議事經過大要	六八
三、監督委員會案	七一

第三章 政治問題ニ關スル外交々々涉ノ成果

一、外交々々涉ノ概勢	七六
------------	----

二、政治問題ニ關スル主要關係國ノ態度	七六
第四章 精神軍縮問題	八〇
一、精神軍縮分科會ノ業績	八〇
二、條文案	八一

第二部 各 論

第一編 政治問題

第一章 概 說

「ヘンダーソン」
要關係國
歐洲主
要關係國
訪問
十月九日
幹部會

一、昭和八年六月二十九日一般委員會ノ委任ニ基キ「ヘンダーソン」議長ハ主要關係國當路者ト英條約案ニ關スル諸難問解決ノ内交渉ヲ行フ爲七月以來倫敦、巴里、羅馬、伯林、「ミニニツヒ」、「ブラーグ」ヲ歴訪シ又米代表「ノーマンデヴィス」トモ會談セリ右内交渉ノ結果トシテ「ヘンダーソン」ハ十月九日ノ幹部會ニ於テ「各國政府ハ何レモ協定ニ到達セントノ真摯ナル希望ヲ有シ各種難點ニ付テモ之ヲ解決シ得サルカ如キモノ無シト信ス」トノ樂觀的態度ヲ示シ諸難點中比較的協定到達ノ容易ナル問題ノ中ニ政治問題トシテハ一、實力不行使ノ一般化二、侵略者ノ定義三、監督四、條約批准前ノ軍縮常設委員會ノ創設ヲ舉ゲ解決困難ナル問題ノ中ニ一、條約ノ期間二、條約違反ノ場合ノ制裁ノ問題ヲ舉ゲタリ「ヘンダーソン」ハ進テ其ノ内特ニ解決困難ナリト目セラルルハ獨佛間ノ主張ノ懸隔ニシテ獨ハ條約期間ヲ五ケ年トシ其間ニ禁止兵器ノ破壊及軍備平等權ノ漸進的實現ヲ爲スヘシトシ佛ハ八年間ヲ期間トシ之ヲ二期ニ分チ第一期四年間（所謂試驗期間）ニ於ケル監督制度運用ノ實蹟ヲ軍縮常設委員會ノ裁定ニ委ネ其ノ實效アリト認メラレタル場合ニ第二期ノ四年間中條約所定ノ軍縮ヲ實行スヘシト爲スモノナルコトヲ説明シ他方又條約違反ノ場合ノ制裁及平等權ノ適用ニ付テハ關係國ニ意見一致シ居ラサルコトヲ明ニシタリ

英外相ノ
聲明、獨逸ノ
退却
十月十四日
幹部會

二、右幹部會ノ爲壽府ニ參集セル主要關係國諸代表ハ十月十六日開催ヲ豫定セラレタル一般委員會迄ニ基礎的協定ヲ見出サントテ屢々會合ヲ重ネ十月十四日幹部會ニ於テ英外相「サイモン」ハ其ノ結果ヲ披露シ「英案ノ若干點ニ付修正ノ要

アルヲ認ム英案ノ五年トセル條約期間ヲ八ケ年トスルコトニハ左シテ反對無シ右期間ノ終リニ(イ)高度軍備國ノ軍縮及(ロ)安全保障組織ノ下ニ於ケル平等權ノ實現ノ二根本條件ヲ實現スヘキモ右目的ハ段階的ニ到達スルノ方法ヲ執ルヘキコトヲ提議セラレ居ルカ右ハ歐洲ノ現狀ニ鑑ミテ必要ナリト云フヘシ内交渉ノ結果トシテ爾今條約期間ヲ八年トシ先ツ歐洲大陸々軍編成様式統一及常設委員會ヲ介スル適當ナル一般の監督制度ノ創設ヨリ初ムル案ヲ審議スヘキナリ右措置ノ實行期間ノ決定ハ更ニ充分研究ヲ要スヘク或者ハ四ケ年ヲ可トシ他ノモノハ之カ短縮スヘシト爲ス何レニセヨ條約中ニハ八年ノ期間滿了ノ際強大軍備國ニ對スル實質的縮少ニ關スル詳細ナル規定及第二期中ノ禁止兵器ノ破壊及將來ノ保有禁止後一切ノ國ニ對シ等シク保有ヲ許サルヘキ兵器ノ一般表ヲ揭クルコトヲ要スヘク平和條約ニ依ル被軍縮國ノ速時再軍備ハ排スヘキナリトノ趣旨ノ聲明ヲ爲シタリ

右聲明ニ對シテ米伊佛何レモ好意的態度ヲ示シタルカ獨ハ依然トシテ高度軍備國ノ軍縮及速時且實際的ナル平等權ノ實現ノ二點ヲ重要視スルモノナルコトヲ明ニシ協定ノ前途遽ニ樂觀シ難キヲ思ハシメタル折柄十月十四日突如トシテ獨逸ハ高度軍備國ニ軍縮ノ意無ク平等權實現ノ要求ニ満足ヲ得ス會議參加ノ無意味ナルヲ理由トシテ軍縮會議ヨリ脱退ヲ通告シ代表部ヲ引上ケタルヲ以テ(獨ハ同時ニ聯盟ヨリモ脱退ヲ決シ十月十九日附之ヲ聯盟事務局ニ通告ス)軍縮協定ハ茲ニ一大頓挫ヲ來セリ

獨逸脱退ノ善後措置
人員及監督二委員
會ノ設置
報告者ノ任命

三、獨ノ會議脱退ニ依リ會議ノ前途ニ一大暗雲ヲ生シ英案ノ第二讀會議續行ハ固ヨリ不可能トナリタル結果狼狽セル主要關係國代表種々對策研究ノ後結局會議續行ノ形式ヲ保ツ爲十一月九日ノ幹部會ハ人員及監督ニ關スル附屬委員會ヲ設置シ右問題ノ技術的方面ノ研究ヲ續行セシメ安全保障、武力不行使及侵略國決定問題等ニ關シ報告者ヲ任命シ制裁問題ニ關シ議長ニ之カ報告方ヲ委囑シタリ右二委員會ハ引續キ開催セラレタルモ政治的の根本ノ協定無クシテ問題ノ研究ヲ満足ニ爲シ得サルコトハ當然ニシテ加フルニ伊ハ獨ノ參加無クシテ會議ヲ續行スルハ無意義ナリトテ「オブザーヴァー」的態度ヲ聲明シタルヲ以テ何等見ルヘキ效果ヲ舉ゲ得ス又諸問題ノ報告者ハ十一月十五日相集リテ政治問題解決前ニハ各問

十一月二日
幹部會
外交交渉
主要關係國間ノ外交交渉

題ノ解決困難ナル旨ヲ一般委員會ニ報告シタリ他方議長ハ關係國ニ於テ軍縮會議ニ對スル熱意ノ無キニ憤慨シ辭職ノ意ヲ洩シ會議ハ愈々行詰リノ觀ヲ呈シタリ依テ十一月中旬關係國主要代表者ハ急遽壽府ニ參集シテ會議續行ノ熱ヲ示シ議長ノ辭意ヲ翻ヘサシメ十一月二十一日ノ幹部會ハ十二月四日開催ノ豫定ナリシ一般委員會ヲ一月ニ延期シ其間主要關係國間ニ外交的手段ニ依リ協定ノ根本的基礎ヲ見出ス爲努力スルコトヲ決定シタリ

獨佛間ノ主要爭點

四、主要關係國間ノ外交交渉ハ主トシテ獨佛間ノ妥協點ヲ見出スコトニ集合セラレ十二月末在獨佛大使ト獨外相トノ會談ヲ切掛ケ十一月一日佛ノ對獨覺書一月三日ノ羅馬ニ於ケル「ジョン、サイモン」「ムツソリーニ」ノ會見一月十九日ノ對佛獨回答等ノ過程ヲ經テ英ハ一月二十九日覺書ヲ以テ主要關係國ニ對シ佛獨間ノ主張ヲ折衷セル妥協案ヲ提示シ且二月中旬「イデン」ヲシテ巴里、伯林、羅馬ヲ歴訪セシメ斡旋ノ勞ヲ執ラシメタリ然ルニ獨佛間ノ具體的意見ノ相違タル一、監督 佛カ條約ノ實施期ヲ二期ニ分チ第一期中ニハ獨ニ再軍備ヲ許サス先ツ獨軍隊ノ編成替ヲ行セ試驗的監督ヲ實施セントスルニ反シ獨ハ監督ヲ認ムルト同時ニ平等權ノ一態樣トシテ直チニ或程度ノ防備的武器ノ裝備ヲ要求ス

二、人員 獨軍隊ノ組織ノ編成替ヲ爲スコトニ付意見一致セルモ一方獨ノ準軍事的組織の團體他方佛ノ殖民地兵及既教育豫備兵ヲ人員算定上ニ考慮ニ入ルルコトニ付一致セス

ノ二點ニ付獨佛間ヲ妥協セシムルニ至ラス

佛新外相「バルトウ」ハ硬化セル佛國ノ輿論ヲ代表シテ二月十四日ノ對獨覺書ニ於テ讓歩ノ意無キヲ示シ獨亦三月十三日之ニ答ヘテ自說ヲ固執シテ讓ラス佛ハ三月十七日對英回答ニ於テ獨ノ再軍備ヲ合法化シ強軍備國ヲ軍縮スルコトハ到底承認シ得ストシ從來ノ主張タル安全ノ強化條約實行ノ保障ノ必要ヲ力說セリ茲ニ於テ獨佛協定成立ノ見込益々薄ラキタルカ英ハ從來ノ安全問題ニ關スル態度ヲ緩和シ條約實行ノ保障問題ニ一步ヲ乘リ出サントスルノ氣勢ヲ示シ英カ條約實行保障ノ内容及之ヲ與フル場合佛ノ同意シ得ル軍縮ノ程度ニ付説明ヲ求ムル處アリタリ他方伊ハ一月四日「サイモン」「ムツソリーニ」會談ニ際シ其ノ態度ヲ宣明シ國際間ノ現狀ヲ以テシテハ英案ノ軍縮案ハ實現困難ナルカ故ニ軍備現

精神軍縮
案

狀制限ヲ原則トシ獨ニハ或程度ノ再軍備ヲ認メテ之ヲ監督制度下ニ置クヘシトノ主張ヲ爲シ居リ英ハ兎モ角佛ハ現狀制限ニ必スシモ反對シ居ラサルハ注意ニ値ス昭和九年一月下旬及二月中旬開催セラレタル小幹部會ハ前記外交々々進行ノ結果ヲ俟ツ爲其ノ都度幹部會ノ召集ヲ延期シ來リ四月十日之ヲ召集スルコトナリタルカ右ノ如キ情勢ノ下ニ於テ英案ヲ基礎トスル第二讀會ノ爲ニ一般委員會ヲ召集スルコトハ不可能ナリト云ハサルヘカラス

五、以上ノ外精神軍縮問題ニ關シ精神軍縮分科會ハ十月再會十一月十七日教育智的協力「ラヂオ」放送演劇活動寫眞ニ關スル條文案ノ作成ヲ終リ十二月一日軍縮會議々々長ニ之ヲ提出セリ

第二章 監督委員會

監督委員
會ノ構成

一、十一月十一日幹部會ニ依リ設定セラレタル監督問題委員會（原名ハ Comité du Bureau des Dispositions Générales ナルモ其ノ内容ヲトリテ以後監督委員會ト稱ス）ハ日、英、米、佛、伊、蘇、白、土、西、波蘭、諸威、亞爾然丁ノ十二ヶ國委員ヨリ成リ（後ニ羅及埃ヲ加フ）「ブルカン」ヲ議長トシ十一月十三日ヨリ十二月六日迄八回會合常設委員會關係事項特ニ監督問題ヲ議題トシ英案ニ對スル修正案同案ニ對スル補足の修正案ヲ討議シタリ

議事經過
大要

二、議事經過大要

第一回（十一月十三日）

- (イ) 議事ハ非公開トシ且自由ナル討議ヲ行フカ爲當分議事録ヲ作成セサルコト
- (ロ) 議題ハ常設軍縮委員會關係事項特ニ監督問題トシ英案ニ對スル修正案、同案ニ關スル補足の修正案及右常設委員會ノ即刻設置ノ順序ニテ討議ス但シ右議題ハ限定的ナルモノニアラサルコト
- (ハ) 新ニ羅馬尼及埃太利ヲ附加スルコト（小協商國及舊敵國代表國ノ意味合ナリ）ヲ定メタル後一般の討議ヲ行ヒタル處伊ハ自國ハ本委員會議事ニ對シ七月採用セラレタル案ニ何等ノ變更ヲ加フヘキ新

提案ニ付テ何等ノ意見ヲ述ヘ又ハ何等ノ議論ヲ爲スコトヲ「アブステーン」スル旨ヲ宣言シテ「オブザーヴァー」ノ態度ヲトリ我方ハ現地調査ニ關シ從來帝國ノ爲シ來レル一般の留保ハ依然存續スルコトヲ述ヘ議長之ヲ了承セル處蘇ハ現地調査ニ對シ反對ノ意ヲ表スルモノニ非ルモ同監督ニシテ實效ヲ舉グルカ爲ニハ其ノ適用ヲ普遍的ナラシムルヲ要ストノ意見ニシテ蘇聯邦近接國及地域ヲ其ノ適用ヨリ排除スヘカラストナスモノナリ追テ右趣旨ノ修正案ヲ出スヘシト述ヘタルニ依リ我方ハ更ニ蘇ノ所謂普遍的適用ニ付帝國トシテハ意見ヲ有シ一般の留保ヲナシタル次第ナルカ本委員會議事ノ現狀ハ未タ其ノ時機ニ非サルニ依リ我方見解ノ詳細ハ何レ右蘇修正案提出セラレタル時又ハ其ノ他適當ノ時機ニ於テ幹部會又ハ一般委員會ニ於テ開陳スヘシト反駁シタリ

次テ英案關係條文ノ審議ニ入り第六十九條ニ關シテハ佛側ノ提案ニ依リ英代表部ニ於テ人員委員會、空軍報告者其他ト連絡ノ上常設委員會ノ受クヘキ報道ノ種類ニ付報告書ヲ提出スルコト及第七十條ニ就テハ若干修辭上ノ變更ヲ加ヘタル上一應同案ノ討議ヲ終レリ

第二回（同十四日）

英案第八十六條及其ノ修正案ノ審議ヲ行ヘルカ何等纏ル所ナシ

第三回（同十六日）

第八十六條ハ佛英ノ留保附ニテ佛修正案（Cont. D.C.G./26）ヲ容レテ假ニ採擇シ、第七十三條ニ付多數決ヲ締約國ノ三分ノ二トスルカ出席國ノ三分ノ二トスルカニ付テハ決定スルニ至ラス次テ特別多數決ニ依ルヘキ其他ノ場合ヲ檢討シ土耳古提案ノ規則採決方法ニ付佛ヨリ最初ノ規則採決ニ付テハ第八十六條ノ一般方法ニ依リ其後ノ修正ニ付テハ三分ノ二トスヘシト提議シタルカ再考スルコトナリ其他ノ特別多數決ニ依ル場合ヲモ研究スルコトトス

第四回（同二十日）

前項ノ議事末段ノ佛提議ニ付テハ英ノ留保アリタル外反對無ク特別多數決ニ依ルヘキ場合ヲ檢討ヲ續ケタルカ第七十條

ニ付テ佛修正案ヲ基礎トシ責任アル筋ヨリ來ル情報ニ付テハ之カ責任アル筋ナルヤ否ヤヲ決定スルコトヲ常設委員會ニ委ヌルハ危險アルヲ以テ右ニ付條約中ニ一定ノ定義ヲ與フヘシトスル波蘭ノ提議ニ對シ佛、英、議長ハ定義ヲ爲スノ困難ナルヲ理由トシテ反對シ次テ責任アル筋ナルヤ否ヤヲ決定シタル後ニ其ノ情報内容ヲ審議シテ之ヲ取上クヘキヤ否ヤヲ決スル場合ニ付前者ハ特別多數決ニ依リ後者ハ多數決ニ依ルヘシトスル佛ノ主張ニ對シ議論別レ決定ニ至ラス

第五回(同二十八日)

前回ノ會合ニ於テ未決ノ佛ノ主張ニ關シ議長ヨリ責任アル筋ヨリ出タルヤ否ヤヲ豫メ審査スヘキ小委員會ヲ構成シテ其ノ意見ヲ求メ同委員會ニハ當事國代表者ヲモ參加セシムヘキコトヲ提議シ土、埃ハ小國ノ平等參加ノ權利ヲ危クスルノ故ヲ以テ之ニ反對シタルモ右ノ如ク決定セリ

次テ議長ヨリ特別多數ニ依ル表決方法トシテ締約國ノ半數以上出席ノ上出席者ノ三分ノ二ノ多數ニ依ルヘキヲ提議シ英佛ハ之ヲ留保セリ又最初ノ議事規則採決ニ就テハ締約國半數以上ノ出席ヲ以テ多數決ニ依ルヘキヲ署名國半數以上ノ出席ヲ得サルトキハ一定ノ期間ヲ置キ再開シ出席國ノ多數決ニ依ルヘキモノト爲シ又同規則ノ修正ニハ半數以上ノ出席アリテ其ノ三分ノ二ノ多數ニ依ルヘシトスル議長提案可決セラル右ニ引續キ定期實地調査ニ關スル佛ノ「ノート」ノ討議ニ入り佛ハ目下ノ軍縮ニ關スル外交々渉成功ノ爲ニモ本問題ノ技術的方面ノ研究ヲ進ムルコト必要ナリト力説シ米ハ現狀ニ於テ本問題ノ討議ヲ進ムルモ各國ノ留保等ノ爲満足ナル結果ヲ得サルヘシトテ審議續行ニ反對ノ態度ヲ表示セルカ結局之レカ討議ヲ續行スルコトナレリ

第六回(十二月一日)

定期實地調査問題ヲ討議シ議長ヨリ第七十五條ヲ左ノ趣旨ニテ起草セムコトヲ諮リ大體異議ナク可決ス

條約ニ依ル約束ノ範圍内ニ於テ各國ノ軍備ニ對シ毎年少クモ一回定期視察ヲ行フ

但シ常設委員會ハ出席國三分ノ二ノ多數決ニ依リ且右多數決ニ被視察國ノ隣國カ凡テ加ハリ居ル場合ニハ右定期視察

ヲ一年間休止セシムルコトヲ得

定期視察ハ締約國ノ完全ナル平等待遇ノ下ニ委員會ノ開設ト共ニ委員會ニ依リ組織セラルヘシ

常設委員會ハ右目的ノ爲條約ノ實施ヲ確メ且右監督上必要ナル現地調査ヲ行フ監督委員會(複數)ヲ設置ス

常設委員會ハ本章附屬書ノ規程ニ從ヒ監督委員會ノ構成權限及運用ヲ決定ス

次テ實地調査ニ關スル佛委員ノ「ノート」ニ基キ監督委員會ノ構成及權限ニ付討議ヲ進メタリ

第七回(十二月四日)

英案第八十五條ヲ審議シ若干ノ修正ヲ加フルコトトス

議長ハ「インミュニテイ」ニ關スル佛國提案ハ政治問題ニモ關聯スヘク今日之ヲ審議スルコト困難ナルヘシト述ヘタルニ對シ佛ハ本問題ニ付差別的待遇ヲ與フルハ了解ニ苦シムトテ之カ審議ヲ主張シタルモ英米共ニ意見ノ發表ヲ留保シ結局議長提案ノ通り議長ニ於テ從來ノ論議ニ關スル報告書ヲ作成シ之ヲ次回ノ監督委員會ニ附議スルコトナレリ尙英ハ英案ニ對スル修正案ニ付テハ其ノ態度ヲ留保シ英政府ニ討議ノ結果ヲ報告スヘシト述ヘタリ

第八回(十二月六日)

監督委員會力從來ノ討議ノ結果ニ基キ議長ノ作成セル條文案(Conf. D./C.D.G./3)ヲ審議シタルカ若干ノ修正ヲ加ヘテ同意セリ

尙右案ノ補正及常設委員會ノ即刻設置ニ關スル提案研究ノ爲尙翌年一月一日一般委員會ニ於ケル第二讀會開催前ニ更ニ集合シテ研究ヲ續行スルコトナレルモ外交々渉ノ經過ニ鑑ミ遂ニ再開ニ至ラス

監督委員
會案

三、監督委員會案

前項討議ノ結果ニ基キ「ブルカン」ハ左記修正案文(Conf. D./Bureau/C.D.G./30)ヲ提出シタリ

第七〇條(現數字)

常設委員會ハ責任アル筋ヨリ來リ且其ノ保有スヘキモノト信スル總テノ他ノ情報ヲ考量スルコトヲ得
常設委員會ハ總テノ場合委員ノ一名ニ依リ供給セラルル情報ヲ審議ス
私的筋ヨリ來ル情報ハ豫メ小數委員會ニ附議セラレ同小數委員會ハ審議ヲ繼續スヘキヤ否ヤノ點ニ付常設委員會ニ報告スヘシ問題トナレル政府ハ是ニ關スル情報ノ爲ノ會合ニ表議權ヲ以テ代表セラルル權利ヲ有スヘシ

常設委員會及其ノ分科會ノ決定ニ必要ナル多數

一般規則 第八十六條（現數字）

本條約或ハ常設委員會ノ規則ニ依リ別ニ規定セラレタル場合ヲ除キ委員會及分科會ノ決定ハ會合ニ出席セル委員ノ過半數ニ依リ之ヲ行フヘク棄權ハ缺席ト看做サルヘシ

條約案中ノ除外例

（一）委員會規則ノ作成

新 條

常設委員會ノ規則ノ採用ニ付テハ尠クトモ締約國ノ過半數會合ニ出席スルニ非サレハ表決スルコトヲ得ス
右法定數ニ達セス委員會カ審議不可能ナル場合ニハ第二回會合ハ十五日後ニ召集セラルヘシ右第二回會合ニ於テハ出席數ノ如何ヲ問ハス規則案ハ有效ニ採用セラルヘシ

（二）規則ノ修正（法文ノ附加削除變更）

新 條

常設委員會ハ規則ノ修正ニ付其ノ目的カ特ニ召集ニ際シ指示サレタルトキニミ有效ニ審議シ得ヘシ
規則ノ採決ヲ爲スニ必要ナル出席數ニ關スル上述ノ第、條ニ掲ケラレタル規定ハ修正ヲ施ス討議ニ適用アルヘシ

シ且修正案カ採決セラルル爲ニハ會合ニ出席セルモノノ三分ノ二ノ多數ヲ必要トス

（三）訴ヘノ場合現地調査ヲ行フ決定（第七十三條）

附記、現第七十三條及第七十七條ヲ一併シ條文ヲ左ノ如クス

締約國ノ一カ現條約ノ規定カ破棄セラレ又ハ破棄セラルルノ虞アリト認ムルトキハ該締約國ハ右ニ付常設委員會ニ訴フルコトヲ得

常設委員會ハ至急問題ノ審議ヲ行フ爲ニ集合シ其ノ態度カ訴ヘヲ起サシメタル締約國ニ對シ總テノ有用ナル説明ヲ提出方招請スヘシ

常設委員會ハ右ノ如キ場合本條約ニ依リ規定セラレタル情報及監督ノ種々ノ方法ニ訴ヘ且殊ニ委員會ノ決定スル條件ノ下ニ訴追セラレタル締約國ノ領土上ニ必要ナル調査ヲ行フヤ否ヤヲ決定スルコトヲ得但シ後者ノ決定ハ少クトモ締約國ノ全數ノ半數カ會合ニ代表セラルルヲ條件トシテ出席國ノ三分ノ二ノ多數決ヲ以テノミ爲スコトヲ得
委員會ハ、、、、（現第七十七條ノ如ク續ク）

定期的調査 第七十五條（現數字）

條約ニ依ル約束ノ範圍内ニ於テ各締約國ノ軍備ニ付毎年少クモ一回定期視察ヲ行フ

例外トシテ常設委員會ハ右規則ノ適用中止ヲ決定スルコトヲ得

右決定ハ一年間ニ限り有效トス右ハ出席國三分ノ二ノ多數決ニ依リ爲サルヘク右多數決ニハ被視察國ノ隣國カ凡テ加ハリ居ルコトヲ要ス

本條所定ノ視察ハ締約國ノ完全ナル平等待遇ノ下ニ委員會ノ開設ト同時ニ委員會ニ依リ組織セラルヘシ
常設委員會ハ右目的ノ爲條約ノ實施ヲ確メ且右監督上必要ナル現地調査ヲ行フ監督委員會（複數）ヲ設置ス
常設委員會ハ本章附屬書ノ規定ニ從ヒ監督委員會ノ構成權限及運用ヲ決定ス

附 屬 書

七四

A 監督委員會ノ構成

第 一 條

常設委員會ハ監督委員會ノ數及其ノ各々ノ擔當スヘキ地域ヲ決定ス
同一監督委員會ノ管轄下ニ入ル國家團ノ構成ハ外交關係ヲ結ヒ居ラサル列強ヲ包含セサル様決定セラルヘシ
右構成ハ何時ニテモ常設委員會ニ依リ修正セラレ得

附記 報告ハ本點ニ付政治的事情ヲ考慮スルノ必要ヲ指示シ且最モ典型的ノ場合即チ外交的關係ノ斷絶ヲ伴ハサル

重大ナル紛争ノ場合ヲ示スヘシ

第 二 條

常設委員會ハ監督委員會ノ委員ヲ任命ス

一 監督委員會ノ管轄内ニ入ル地域の團體ヲ爲ス總テノ國家ハ完全ナル平等ノ下ニ代表セラレ
又各委員會ハ他ノ國家ノ人民ヲ包含ス

附記 報告ハ後者カ多數ヲ成スコト望マシキヲ指示スヘシ

監督委員會カ一國ノ軍備ニ付現地視察ヲ爲ストキハ同國ノ代表者ハ一時的ニ右視察ノ終結迄同委員會ニ出席スルコト
ヲ中止ス

被視察國ハ視察中委員會ニ隨伴スヘキ一名又ハ數名ノ參與員ヲ任命ス右參與員ハ常ニ分科會ノ用ニ應シ且其ノ任務達
成ヲ容易ニスルノ任務ヲ有ス監督委員會ハ參與員ニ調査ニ列席スルノ權利ヲ拒ムコトヲ得ス

第 三 條

監督委員會ノ議長ニハ各委員順番ニ之ニ當ル其ノ順序ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

B 現地視察中ノ監督委員會ノ運用

第 四 條

監督委員會ハ常設委員會或ハ常設委員會カ其ノ權限ヲ委任シタル機關ニ依リ與ヘラレタル指令ニ遵ヒ各視察ノ題目ヲ
決定ス

監督委員會ハ現地ニ於テ條約約束ノ範圍内ニ於テ其ノ必要ト認ムル豫期セサル認定ヲ行フ爲ニ題目ヲ補充スルコトヲ
得

第 五 條

監督委員會ハ事實ノ認定ヲ行フ以外ノ任務ヲ有セス殊ニ地方ハ文治或ハ軍事官憲ニ對シ命令又ハ意見ヲ與フルコトヲ
禁セラル右官憲ノ援助ヲ必要トスルトキハ被視察國ヲ代表スル參與員ノ仲介ニ依リ之ヲ行フ參與員ハ右ノ爲ニ總テノ
權限ヲ與ヘラレタル訓令書ヲ携帯スヘシ

第 六 條

(記憶トシテ) 監督委員會ノ調査ヲ行ヒ得サル事實上ノ或要素ノ指定(研究室ノ仕事會計、、、)

本條ハ權限アル委員會カ本問題ニ對シ専門的ニ必要ナル適確サヲ與フルトキニ起草セラルヘシ

第 七 條

監督委員會ハ直ニ各場合關係地方官憲ニ其ノ認定ノ結果ヲ通告シ後者ニ書面ヲ以テ右ニ關シテ提出スヘキ意見ヲ作成
スルコトヲ招請スヘシ

第 八 條 (條約案現第八五條)

締約國ハ監督委員會ニ其ノ任務實行殊ニ該委員會カ聴取セント欲スル證人ノ出頭ニ關シテ必要ナル總テノ便宜ヲ與
フ

七五

監督委員會ハ其ノ視察目的ニ關シ本附屬書第六條ノ規定ノ留保ノ下ニ總テノ文書ヲ了知スルコトヲ得

第九條

監督委員會ト地方官憲ノ間ニ困難カ生スルトキハ監督委員會ノ議長ハ直ニ常設委員會又ハ其ノ爲ニ其ノ權限ヲ委任セル機關ニ持出スヘシ委員會又ハ右機關カ之ヲ了知スル間議長ハ分科會カ其ノ任務ヲ遂行シ得ル爲必要ナル措置ヲ執ルヘシ視察國政府ハ直接問題ノ困難ニ觸レサル總テニ付監督委員會ニ協力ヲ與フル爲ニ其ノ命令下ニ在ル官憲ニ訓令ヲ與フヘシ

第十條

各視察ニ引續キ監督委員會ハ直ニ其ノ行ヘル認定ヲ陳述セル報告書ヲ作成シ常設委員會議長ニ右報告ヲ發送スヘシ監督委員會ハ右議長ニ對シ緊急ノ場合ニハ視察中ノ特別報告ヲ送ルコトヲ得監督委員會ノ各委員ハ特別報告ノ形式ノ下ニ其ノ意見ヲ考慮スルコトヲ要求スルノ權利ヲ有ス常設委員會ノ規則ハ監督委員會ノ報告ノ締約國ニ通知セララルル條件ヲ決定スヘシ

第三章 政治問題ニ關スル外交々涉ノ成果

外交々涉
概勢

一、第一章概説ニ於テ之ヲ述ヘタルカ如ク昭和八年十二月ヨリ九年四月九日ニ至ル外交々涉ハ主トシテ獨佛間ノ爭點ヲ調和スルコトニ集中セラレ英ハ調停者タルノ地位ニ於テ「マクドナルド」案ノ修正案ヲ提示シタリ然ルニ「ヒツトラ」政權ノ強化ハ佛ノ輿論ヲ刺戟シ且獨ノ再軍備ノ情勢歷然タルニ至リシヲ以テ佛ハ斷然獨ノ再軍備ヲ承認シ且他ノ高度軍備國ヲ軍縮セシムル方針ニ反對シ其ノ從來主張セル安全問題ニ付充分満足ヲ得サル限リ軍縮ノ如キハ問題トシ得サルノ態度ヲ明白ニシ外交々涉ハ茲ニ一大頓挫ヲ來シ打開愈々困難トナレリ

政治問題
ニ關スル
主要關係
國ノ態度

二、左ニ關係國間ニ交換セラレタル覺書及書翰ヲ基礎トシテ政治問題ニ關スル關係國ノ態度ヲ要約スレハ左ノ如シ

平等權問
題

(一) 平等權問題(獨逸將來ノ軍隊カ必要ナル防禦の武器ヲ保有シ得ル時期)

獨 「ライヒスウエール」ヲ短期兵役軍隊ニ改編スルニ際シ必要ナル武器ヲ保有セサルヘカラス

佛 聯盟規約第八條及平和條約第五編ノ前言ノ主義ニ從ヒ軍備ノ監督附漸進的縮少ヲ可ナリトシ他ノ列強カ保有シテ

獨ノ保有シ得サル機材ハ獨逸軍隊ノ改編及軍事準備教育團體及準軍事團體ヲ條約制限ノ正規人員中ニ包含セシメタル後右武器ヲ保有シ得ヘキモノトスヘシ

伊 平等權ハ獨及他ノ軍備國ニ認メラレタルモノニシテ獨ノ再軍備ハ妨クヘキモノニ非スシテ規律及監督外ニ於テ之カ行ハルルヲ避クヘキナリ

英 安全保障制度ノ下ニ於ケル平等權ノ原則ヲ承認シ協定ハ一方ニ於ケル軍縮ト相竝ンテ他方ニ於ケル再軍備ノ或種ノ手段ヲ包含スルモノナルコトヲ要シ條約案ニハ平等權ノ原則ヲ實際的ニ體現セシメサルヘカラス

安 全

(二) 安全(條約實施ノ保障—聯盟—ノ復歸)

佛 軍備ノ規制ハ政治上ニ於ケル保障ト組合セタル廣汎ナル基礎ノ上ニ立チテノミ協定成立ノ可能アリト云フヘク右ノ原則ハ有效ナル方法アリテ初メテ價值アリ實施ノ保障ハ之ヲ監督ノ方法ニ依リ實現スルコト可能ナルヘク殊ニ違反ノ重要性ニ相應セル制裁ノ方法ニ依リ違反事實ヲ取止メシムルコト可能ナルヘシ締約國ノ聯帶ハ一國ノ安全ヲ危殆ナラシムル違反ノ認メラレタルトキ實行セラレサルヘカラス侵略ハ明白ニ禁止セラレ且聯盟規約自身ノ認ムル方法ニ依リ有效ニ鎮壓セラレサルヘカラス

聯盟ハ平和ノ團體的保障ヲ與ヘ得ル唯一ノ機關ニシテ安全ノ最上ノ保障ハ何等強ヒラルルコト無ク獨カ聯盟ニ復歸スルコトナリ

獨 歐洲列強カ「ロカルノ」協定ノ政治的内容ヲ害セスシテ十年毎ニ更新セララルル不侵略條約ヲ署名スルコトヲ提議ス

英「マクドナルド」條約案第一編ハ安全問題ヲ取扱ヒ昭和八年五月二十四日ノ一般委員會ノ討議ノ結果今日ニ於テハ全編四ヶ條ヨリ成リ内三ヶ條ハ巴里規約ノ侵犯セラレタル場合或ハ侵犯ノ脅威アル場合即刻協議ヲ招請シ得ヘク同協議ハ條約署名國間ニ於テ開催シ平和ノ維持ニ任シ或ハ平和ノ恢復ノ爲ニ調停ノ勞ヲ執リ而モ尙平和ノ恢復不可能ナルコト判明セル場合ニハ何レノ側カ紛争ノ責任ヲ負フヘキヤヲ決定スヘキコトヲ規定セリ然レトモ世界平和ニ對スル安全感ノ關係ハ決定ノ重要性ヲ有スルモノナルカ故ニ更ニ數ヶ條ノ條文ヲ追加セント欲ス乃チ巴里規約ノ侵犯セラレタル場合或ハ侵犯ノ脅威アル場合協議ヲ開催スルノ原則ハ之ヲ軍縮條約自體ノ侵犯セラレタル場合或ハ侵犯ノ脅威アル場合ニモ適用スルヲ肝要ナリト認ム從テ三ヶ條ノ新條項(第二條甲、同乙、同丙)ヲ修正條項ノ二及三ノ中間ニ挿入センコトヲ提議ス

新條項ノ第二條甲ハ現條約案ノ第八九條トナルヘク本條項ハ條約ノ忠實ナル履行ハ締約國ノ共同利益ナルコトヲ宣言スルモノナリ又第二條乙ハ「第一條ニ規定セラルル即時協議ノ規定ハ本條約第五編第一款ニ依リ設立セラルル常設軍縮委員會ノ或締約國カ本條約ヲ忠實ニ履行セサルコトヲ示ス事實ノ存在ヲ報告スル場合ニモ亦適用セラルヘシト規定ス

第二條丙ハ「右協議ノ目的トスル處ハ事態ヲ匡救回復シ本條約諸規定ノ適用ヲ持續セシメンカ爲ニ執ルヘキ措置ニ關シ意見ノ交換ヲ行フニアリ」ト規定ス

英政府トシテハ是等三條項ノ挿入ハ締約國カ總テ互ニ密接ナル關係ヲ保持シ此ノ極メテ重要ナル國際條約ノ違反ニ對シテハ正當且可能ナル手段ヲ盡シテ之ヲ防止シ又救治スル不可避ノ義務ヲ負擔スルモノナルコトヲ強調スルモノナリト思考ス

獨ノ不侵略協約ヲ締約セントスル希望ハ結構ナルカ此種協約ハ聯盟規約、巴里規約、「ロカルノ」協約等ノ機構ノ下ニ平和ヲ維持セントスル現存義務ヲ何等弱ムルコトナク寧ロ反對ニ之ヲ明白ニ再確認スヘキモノナリ

又獨逸ノ聯盟復歸ハ協定ニ缺クヘカラサル要件タリ

伊 強軍備國ノ陸軍機材ヲ現狀ニ制限シ獨ニ或程度ノ再軍備ヲ認ムル伊太利案ハ軍事ノ專門見地ニ於テ條約ノ全期間爭フ餘地無キ安全ヲ保障スルニ充分ナリ

諸條約ニ基ク保障ニ關シテ伊國政府カ羅馬協定、「ロカルノ」條約竝ニ其ノ包含スル意義價值ヲ擧クルハ無用ニ屬スヘシ四國協定ニ其ノ價值ヲ與フルモノハ安全ニ關スル條約上ノ明確ナル要素ニ非スシテ西歐強國間ノ軍縮問題其ノ他諸問題ニ付テノ繼續的且秩序の協力ナリ

英伊兩國政府ニ特殊の立場ヲ附與スル「ロカルノ」條約ニ付テハ伊國ハ忠實ニ之ヲ遵守シ居ルモノト思考ス

此ノ忠實ナルコトニ於テ伊ハ英政府ノ所信ト何等異ル所ナク國家ニ對スル外交の保障ヲ此ノ上爲スコトハ決シテ必要缺クヘカラサルモノニ非サルノミナラス其ノ數ヲ増加シ却テ其ノ價值ヲ喪失セシムルニ至ルモノナルコトヲ信ス

獨要求ノ受諾ニ對スル最後の且根本的ニシテ安全ノ補足トナル對案ハ獨カ壽府ニ復歸シ軍縮一般條約ニ調印スルノミナラス國際聯盟ニ歸參スルノ約束ヲ爲スニ在リ

(三) 監督

佛 自動的且定期的現地監督相互の平等監督ヲ可トシ有效ナル監督カ條約實施ノトキヨリ行ハレ得ルコトヲ重要視ス獨 國際監督ノ設置ニ對スル獨政府ノ條件ハ右監督カ各國ニ對シ完全ナル平等ノ基礎ニ於テ行ハルコトニシテ監督カ能フ限り有效ニ行ハレ又監督ハ條約實施ト同時ニ行ハルヘキコトヲ受諾ス

英 他ノ總テノ問題ニ付全般的合意ノ成立スルアラハ本條約義務ト同時ニ效力ヲ發生スヘキ自動監督制度ノ適用ヲ受諾スルノ意思アリ

伊 監督ヲ受諾スルノ用意アリ

條約ノ期限

- (四) 條約ノ期限
- 佛 第五年度ヨリ軍縮ヲ爲スヘキ八年間ノ條約ヲ提議ス
- 英 最初五年トセルモ新覺書ニ於テ十年トシ其ノ間ニ縮少ヲ行フヘシト爲ス
- 伊 軍備制限ノミヲ目的トシテ六年間ヲ提議ス

第四章 精神軍縮問題

精神軍縮
分科會ノ
業績

一、精神軍縮分科會ノ業績

精神軍縮分科會ハ昭和八年六月二日ノ同分科會ノ決議ニ依リ研究問題ヲ

- (一) 教育、智的協力、「ラヂオ」放送、演劇、活動寫眞ニ關スル事項
- (二) 國家法制ヲ國際關係發達ノ現況ニ適應セシムルコトニ關スル事項
- (三) 新聞紙ニ關スル事項

ノ三種ニ分チ右三問題ノ各々ニ付案文ヲ作成スルコトヲ決シタリ

以上ノ内(一)ニ關シ既ニ第一讀會ニテ審議セラレタル草案 (Conf. D. M. /18) ヲ利用スルコトトシ六月中之ヲ再審議シ其ノ結果トシテ分科會ハ報告者「コマルニスキー」ヲシテ討議ノ基礎タルヘキ新案ヲ作成セシムルコトトシタリ依テ報告者ハ草案中ノ根本的數箇條ヲトリ前文及第六ケ條ヨリ成ル案文 (Conf. D/C.D.M./31) ヲ提出シ分科會ハ其ノ事業ヲ休止シタリ

右休會中智的協力國際委員會書府ニ於テ開催セラレ前項精神軍縮分科會報告者案ヲ研究補足シ一案 (Conf. D./C.D.M./32) ヲ得テ之ヲ同委員會ニ送付セリ

第十四回聯盟總會ハ第六委員會ニ於テ佛代表「ミストレル」ノ提出セル報告及決議ニ賛成シ智的協力國際委員會案ノ作

成セル精神軍縮案ノ價值アルヲ認メ特ニ精神軍縮分科會ニ列席セル聯盟國カ右案文ニ留意センコトヲ勸告シタリ

十月精神軍縮分科會再開ト共ニ同分科會ハ其ノ報告者案、智的協力國際委員會案竝ニ疊ニ英米二國委員ノ提案セル案 (Conf. D.C.D.M. 23) ノ三案ヲ研究ノ對照トシタル處佛委員ハ右三案ヲ綜合按配シ新提案 (Conf. D.C.D.M. 33) ヲ提出シタルヲ以テ分科會ハ之ヲ討議ノ基礎トシテ審議ヲ進メ英、佛、洪、伊、波、瑞西委員ヨリ成ル起草委員會ヲシテ佛案ニ對スル一般討議中ノ意見ヲ考慮セル新案文ヲ起草セシメタリ

起草委員
會案

右起草委員會案 (Conf. D.C.D.M. 36) ハ十一月十七日分科會ニ於テ採擇セラレタルカ洪國委員ハ其ノ形式ニ關シテ今直ニ同意シ得サル旨ヲ留保シ英委員ハ其ノ内容及形式ニ關シテ英代表部ノ將來ノ意見ヲ留保シ其他ノ委員中ニハ其ノ代表部ヲ決定のニ拘束セス自國官廳ノ意見ヲ求ムルコトヲ留保スルモノアリタリ

條文案 二、條文案 (Conf. D.C.D.M. 36)

前述十一月十七日精神軍縮分科會ノ採擇セル條文案左ノ如シ

(假譯)

前 文

締約國ハ

精神軍縮ハ軍縮會議一般事業ノ一根本要義タルニ鑑ミ

軍備縮少及制限ハ多分ニ各國民間ノ相互信頼ノ増進ニ係ルヘキモノナルニ鑑ミ

精神ノ緩和ヲ目的トスル連續的且整然タル努力ハ物質的軍縮ノ漸進的實現ニ寄與シ得ルモノナルニ鑑ミ

各國間ノ相互依存ハ單ニ政治圈內ニ於ケル其ノ協力ノミナラス其ノ國民間ノ理解ノ努力ヲ必要トスルモノナルニ鑑ミ

總テノ公開論議ノ裡ニ於テ各國代表カ廣キ雅量ト相互尊重トノ精神ニ從フ爲ニ各國トシテ能フル限りノコトヲ爲スコトヲ決心シ

精神軍縮ヲ保證センカ爲ニ一國ニ於テ採用セラレタル手段ノ成功ハ廣ク他國ニ於テ同様ノ手段ヲ採用スルコトニ係ルモノナルコトヲ認メ

國際聯盟ハ智の協力機關即チ特殊情況ニ應スル他ノ規定ヲ損ハスシテ或種精神軍縮事業ヲ達成スルカ爲ニ特ニ資格ヲ有スル機關ヲ各國ノ使用ニ供スヘキコトヲ認メ

第一條 締約國ハ教育團體ヲ含ム總テノ程度ノ教育ハ民族ノ相互敬愛ヲ鼓吹セシメ且國際協力ヲ必要トスル相互依存ヲ鼓吹スル如ク考慮セラレンカ爲ニ其ノ權力ト勢力ト用フルコトヲ約ス

第二條 締約國ハ又教育者ヲシテ右原則ニ據ラシムル爲ニ自國ノ能ヲ限リヲ盡スヘシ教科書ハ同様ノ精神ニ據ルヘク此ノ精神ニ反スルモノハ改正セラレサルヘカラス

且又締約國ハ關係當局ニ對シ他國ト關係ヲ存スル官職員ノ採用試験ニ左記事項ヲ包含セシムルコトヲ勸告スヘキコトヲ承諾ス

國際公法ノ根本原則、國際社會ノ法律の組織並國家間ノ和平増進ノ爲ノ努力ノ要領

締約國ハ關係當局ニ自國歴史ヲ他國ノ歴史トノ關係ニ於テ之ヲ提示スルコトヲ勸告スヘキヲ約ス

第三條 締約國ハ各國ノ制度ニ從ヒ國民間ノ協和ノ精神ヲ助長セシムル爲ニ活動寫眞及「ラヂオ」ノ利用ヲ獎勵スルコトヲ約ス

右ノ爲締約國ハ右ト同一目的ヲ有スル他ノ組織ト同様智の國際協力團體ノ行動ヲ容易ナラシムルモノトス

各國ノ制度ニ從ヒ明ニ他國民ノ合法的感情ヲ害スルカ如キ活動寫眞ノ撮影、「ラヂオ」ノ放送、觀覽物ノ組織ヲ抑制スル爲其ノ勢力ヲ用フヘシ

第四條 締約國ハ最も有效ナル方法ニ依リ最も廣汎ナル計畫ニ基キ平和事業ニ從事スル行政廳、智の環境及其他ノ環境ノ精神軍縮ニ對スル協力ヲ容易ナラシムルコトニ努ム

締約國ハ之カ爲智の協力ノ各國委員會又ハ精神軍縮事業ニ協力セシメラルヘキ其他ノ機關ノ創設及活動ヲ助長セシムルコトヲ約ス

附 屬

政治問題ニ關スル重要會議文書表

外交々々ニ關スル往復文書	Conf. D. 166.
同	Conf. D. 166(a)
一九三三年十一月二十二日會合以來ノ事績ニ關スル議長報告	Conf. D./Bureau 55.
監督委員會議長條文案	Conf. D./Bureau/C.D.G./3.
同 決定案	Conf. D./Bureau/C.D.G./3(U).
精神軍縮分科會起草委員會案	Conf. D./C.D.M./36.
精神軍縮分科會事業報告	Conf. D./C.D.M./37.